



蔵書点検作業実施のため休館します

＜休館期間＞

9月16日(火)～24日(火)

＜休館場所＞

中央図書館・こども図書館本の森・郷の本棚やさ
と図書館・東地区公民館図書室・城南地区公民
館図書室



図書館は返却ポストへ、公民館図書室は事務室
に資料の返却ができます。

※休館に伴い、9月2日(火)～9月15日(火)の間は、
貸出期間を3週間に延長します。



歴史講座「鯨絵と鹿島信仰」

安政の大地震後に流行ったナマズ絵と、鹿島神宮と
の関わり講義します。

日時：10月10日(土) 午前10時～(開場9時30分)

講師：森戸 日咲子 氏 (茨城県立歴史館学芸課学芸員)

定員：60人 参加費無料 要予約

申込：9月9日(火) 午前9時～

中央図書館1階カウンター・電話・電子申請にて

※詳細は、図書館ホームページをご覧ください。

9月のおはなし会

【こども図書館本の森】

5日(土) おはなし玉手箱 (午前10時～)

10日(火) ひよこのおはなしかい

(午前10時30分～)

12日(土) むかしむかしのおはなし会 (午前10時～)

【郷の本棚やさ図書館】

12日(土) おはなしフレンズ (午後2時30分～)

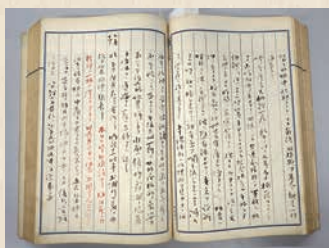
時の記憶

シリーズ 250

「霞ヶ浦の主が捕まった」

岡文化振興課(支所)

Tel 43-1111 (内線1455)



▲干拓事業日誌 大正15年7月11日
大排鯉の捕獲が書かれています。

今回の時の記憶では、八木の干拓事業日誌に書かれた興味深い記録を紹介します。

八木の干拓の堤防がなくなり、最初の田植が進められていた大正15年7月11日に、一尾の「大排鯉」が捕獲されました。この大排鯉は干拓になったあたりの主だとされました。そのため「今回私たちが干拓して農地とすることは時代の変化でどうしようもないことなので、これからは干拓沖で主になって将来まで農地を守ってほしい」と語りかけ、霞ヶ浦に逃がしたそうです。

八木の干拓では、堤防の連結後も度々決壊などが発生しています。中には魚の大群が押し寄せて水路に不具合が生じたというものもあります。工事にあたっては東京湾海堡やコンクリートを用いた建築、鉄道といった当時最先端の土木技術をもった土木事業者が協力していますが、それでも自然をコントロールすることはできませんでした。そのため、大排鯉にも干拓の安全を祈ったのでしよう。自然に挑み、自然を敬う百年前の人々の姿を伝えるエピソードです。

ふるさと歴史館では、干拓事業日誌等の史料から八木の干拓を紹介する企画展を開催しています。

ふるさと歴史館第45回企画展

「開墾奨励ノ熱狂時代ニツキ」

期間／10月4日(日)まで

場所／石岡市立ふるさと歴史館

(総社1-2-10)



いしおか俳句同好会

話しかけ微笑みかえす夏の花
どんな時も「笑う」介護に梅雨明ける

菜園は憩ひの楽園黒揚羽

胡瓜切るリズムは朝のリズムなり

やさど俳句会

一献の浴衣に泌みる旅愁かな

咲き満ちて庭の山百合匂ひ来る

夕風や小枝に靡け蛇の衣

七月や鷹追ふ鷹の声甘し

いしおか川柳会

海峡も夢の中ならひとつ飛び

逝った子に寒くないかと語りかけ

荒れた子のつぶやき今も耳の底

思い出す母が夜なべて穴くくり

石岡俚謡会

急な夕立 上がった後に 街をまたぐよ 虹の橋

児等の短冊 はみ出す願い たわむ七夕 笹の枝

夕日綺麗な 納涼床で 夏の料理を 舌鼓

悩み悩んで 考え抜いて じっと眼を閉じ 待つ夜明け

我が家 みんなで 七夕飾り 願い多くて しなる笹

星に願いの 七夕飾り 受けて流れる 天の川

投稿作品

我の名をすでに忘れし父なれど気を付け帰れと笑むは嬉しき
散歩する道辺に聞きぬ老鶯の 声すがやかにホトトギス鳴く
水無月にあじさいの花色冴えてかすむ夕日にしっとり濡れて
バラが散り ユリと菊さく 我庭園

一色 しのぶ(総社)

小泉 ちよ子(東光台)

田端 俊行(三村)

森 まさえ(東光台)

進藤 寿朗(北府中)

羽生 俊(柴内)

吉田 進(柿岡)

馬場 小零(片岡)

市塚 浩子(片岡)

大橋 初枝(小幡)

岡野 はつ子(小幡)

若色 茂(山崎)

若色 茂(山崎)

小川野 蛙(府中)

醍醐 正夫(東大橋)

香俱耶姫(南台)

紺野 穂(国府)

坂下 蜻蛉(国府)

荒井 幸子(山崎)

鈴木 君江(山崎)

猪膝 和子(東石岡)

関根 貞臣(若宮)

第63回

「八郷吟詠会」

皆様に詩吟の思いを尋ねますと、漢詩の難しさ、歌謡曲の様な多彩なメロディーがないので、分かりにくいと言われます。

詩は主に漢詩ですので、難しいとは思いますが、今回は詩と詩の心を紹介したいと思います。

事に感ず 于漬作

花開けば 蝶枝に満つ 花謝すれば 蝶還稀なり

ただ 旧巢の 燕有りて 主人 貧しきも 亦帰る

この詩の心は、「軽薄な人々は地位が高く勢力を持つ人に群がり集まるが、その人が没落してしまえば見向きもしなくなる。しかし、思いやりのある人は相手が貧しくなっても変わらず深い交わりを続ける」と、この様な素晴らしい内容の詩でございます。

文化協会だより

皆様いかがでしょうか。一緒に習ってみませんか。お待ちしております。

八郷吟詠会 小松崎 栄

TEL 090-4176-5228

